

オーバード・ホール×ひびのこづえ DANCE2

衣装：ひびのこづえ

interview

テレビ、演劇、ダンス、映画、広告など日本の第一線で活躍するコスチューム・アーティスト ひびのこづえを迎えて、新作ダンス作品を制作します。テーマは、私たちが暮らす「富山」。立山連峰、富山湾、チューリップ、五箇山合掌造りなど富山の豊かな自然や原風景を独自の衣装に仕立て上げ、ユーモアたっぷりにダンスで描きます。この作品を通して自分の街がもっと好きになる、アートと地域が繋がる新たな試みに挑戦します。その衣装づくりの中ひびのこづえさんに作品制作の思いについてお聞きしました。



— ひびのさんといえば、従来の「衣装」の概念を超える作品と舞台を次々と作られています。パフォーマーのキャラクターを引き出すような作品から、衣装が作品の中核を占め、ときには舞台セットと見まごうようなものまで。ひびのさん自身がプロデュースする作品も多数あり、2022年は東京芸術劇場で4作品を一挙に上演されました。

今回はオーバード・ホールと共同で制作させていただきます。コンセプトは富山の様々な魅力を紹介すること。タイトルの『TYM traveling your memory あなたの記憶を旅する』は、富山 (ToYaMa) の頭文字からの発想です。ただ作品としては、富山の魅力を通して日本中に息づく様々な素晴らしい自然や土地に根付いた文化と響き合うものにしたい。そう検討する中で旅 (Traveling) が出てきて、このタイトルに落ち着いた感じです。



— 作品の中で「三人の旅人が富山を巡っていく」わけですが、ひびのさんの衣装の力で彼らが「富山の名所や名物そのものになってしまう」のがユニークですね。

キーワードになるのが、彼らが持っている旅行用トランクです。旅の象徴でもあります。越中八尾おわら風の盆の笠になったり、世界遺産である五箇山の合掌造りの藁葺き屋根に変化していく。また出演者のひとりの五十嵐結也さんは雄大な自然の中で長く真っ赤なフンドシを空中に舞わせるアーティスト的な写真で有名な「フンドシ・ダンサー」なのですが、今回はフンドシが富山の河の流れを表現します。

— フンドシで河を！

はい。そして河が合流する富山湾は、幅5メートルもある巨大なドレスで表現する予定です。裾の中にはバルーンが入っていて、大きく立体的に広がります。そこにダンサーの動きが生命力を吹き込むことでしょうか。

— それにしても「名所・名物を衣装で表現する」というのは面白い試みですね。

まだ苦心しているのが、立山連峰をどう衣装で表現するか、なんです。私自身、富山を訪れるたびに、一番大きなインパクトを感じる存在なんです。でもあの大きさ、鋭さ、そして動かない (笑) ので大変ですが、でも挑戦こそお客様の喜ぶ顔につながるので、必ずクリアします！

— 今回出演する三人のダンサー達についてうかがえますか。それぞれユニークな方々ですね。

Chikakoさんと陸さんは、東京オリンピックで『わっさい』という配信用のパフォーマンス映像を創ったときにご一緒しました。Chikakoさんはそのとき木の衣装を着ていただいたんですが、動きも佇まいも独特な空気感のある方でした。陸さんはトリッキングという、アクロバティックな動きが得意で、炎の衣装が素晴らしくマッチしていました。二人とはまた一緒にやりたいと思っていました。

— そして先ほど出たフンドシ・ダンサー五十嵐結也さんですね。

もう一人、あの二人と会って化学反応を起こしそうな人が欲しくて、お願いしました。彼はダンスも演技もできますし、濃厚なキャラクターが素敵です。



— 個性豊かな面々ですね。

それぞれ出目がバラバラなのが良いですね。三人の個性を生かせる作品にしたい。陸さんの激しい動きにChikakoさんの柔らかなダンスや歌が入ったり、五十嵐さんは笑いの要素もあるので空気をガラッと変えられそう……。とにかく今まではないパフォーマンスにしたいですね。

— ぶつう衣装は動きの邪魔にならないようなものをイメージしますが、ひびのさんの場合、あえてダンサーの動きを制限するデザインもありますね。

はい。動きにくい衣装に対するリアクションから新たな動きが生まれてくることもありますから。でもChikakoさんと陸さんには『わっさい』の衣装はとても動きやすかったとってもらえて、涙がでそうになりました。

— クリエイションはどのように進んでいくんですか。

まず出演者と音楽家に衣装のデザインとストーリーを渡し、それぞれに考えてもらっています。全体の流れは私が決めますが、動きは三人に作ってもらい話し合う感じですね。音楽家の小野龍一さんとは既に3作品を一緒に作っているんで、今回はやり方を少し変えてダンサーを含め皆でアイデアを出し合う試みにトライしようと考えています。

— 「ストーリーや音楽ができたあとに衣装」ではなく、逆の順番ですね。

私に関わるパフォーマンスではいつも『稽古の初日には衣装合わせをしたい』と思っています。本番の衣装をリハーサルの段階から着て、どんどん動いて身体に馴染ませて、動きのアイデアを膨らませます。伸びる素材をどれくらい伸ばすか、動いてみないとわかりませんからね。でも私は衣装を作りますが、レースのタイツ一枚で踊る凝った衣装ではないシーンこそがメインだと思っています。やはり一番美しいのは身体なので、衣装はどんどん脱いでくれていい。

— 最後に、どんな舞台にしたいですか。

コンテンポラリーダンスは難解だと思人もいますが、ダンス好きの人も、見たことない人も、全ての人が楽しめる作品を目指します！子供から若い人はもちろん、おじいちゃんおばあちゃんも孫と一緒に、ぜひオーバード・ホールへいらしてください！

聞き手・文 乗越たかお (作家・ヤサぐれ舞踊評論家)



公演情報

オーバード・ホール×ひびのこづえ DANCE2

ユニークな衣装・音楽・パフォーマンスでつづる2作品を上演します。

- ◆ 衣装：ひびのこづえ
- ◆ 会場：オーバード・ホール舞台上特設シアター

TYM traveling your memory (上演時間50分)

チューリップに五箇山、黒部、立山連峰。富山の風景を次々に衣装とダンスに仕立てた富山発のパフォーマンス。言葉を越えたTOYAMAのストーリーに見る人にもそれぞれの旅が始まります。

- ◆ 日時：3月25日 (土) 15:00開演
3月26日 (日) 11:00開演 / 15:00開演
- ◆ パフォーマー：Chikako Takemoto、陸、五十嵐結也
- ◆ 音楽：小野龍一



UP AND DOWN (上演時間50分)

おとぎ話は、悪いこともあるけれど、最後はいつでもハッピーエンド。人生もおとぎ話のようにUp and Down。ダンサーが「裸の王様」「三匹の子豚」「シンデレラ」「赤ずきん」に変身しながら、転がるように踊ります。

- ◆ 日時：3月25日 (土) 13:00開演
3月26日 (日) 13:00開演
- ◆ パフォーマー：大宮大奨、川合ロン、高村月
- ◆ 音楽：原摩利彦



◆ チケット [全席指定・税込]

- 1公演：おとな2,000円 / こども1,000円
- 2公演セット券：おとな3,600円 / こども1,600円

※0歳から入場可能。未就学児は膝上無料。※18歳以下の方は、こども料金。

- ◆ プレイガイド：アスネットカウンター
- ★チケットのお求めはP11「チケット購入方法」をご覧ください。

関連企画

ダンスワークショップ

- ◆ 日時：3月18日 (土) ①11時 / ②13時 / ③15時 (各クラス60分)
- ◆ 会場：オーバード・ホール リハーサル室
- ◆ 参加費：各クラス500円

オーバード・ホール×MAROOT「ひびのこづえ ちいさな生きものブローチワークショップ」

- ◆ 日時：3月11日 (土)・12日 (日) 各日13:30～
- ◆ 会場：MAROOT4階 森のあそびば
- ◆ 参加費：1,000円

オーバード・ホール×MAROOT「ひびのこづえ ポップアップショップ」 入場無料

- ひびのこづえデザインの衣装展示のほか、ハンカチ、タオルを販売。
- ◆ 期間：3月11日 (土)～26日 (日) 10:00～20:00
- ◆ 会場：MAROOT1階 マルクス

申込方法・詳細：

オーバード・ホールHP内特集ページをご覧ください。▶

